学校法人 青山学院

AOYAMA VISION（2014-2024）

中長期計画＜2020 年～2024 年＞

総括

2025 年 7 月

目次

総括にあたって　・・2

AOYAMA VISION（2014-2024）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

中長期計画＜2020 年～2024 年＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

「青山学院・新経営宣言」～Be the Difference～　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

≪資料≫
AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

＊　＊　＊

建学の精神

青山学院の教育は、永久にキリスト教の信仰に基づいて、
行わなければならない。

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
（聖書マタイによる福音書　第 5 章 13～16 節より）

総括にあたって

青山学院は、創立 140 周年を迎えた 2014 年 11 月、150 周年への更なる飛躍に向けて「AOYAMA VISION（2014-2024）」を発表いたしました。この 10 年で、教育業界は ICT の急速な進展や多様な学びのニーズの高まり、そしてコロナ禍による学習環境の変化など、激動の時代を迎えました。そのような環境下においても、私たち青山学院は、『すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園』という揺るぎないヴィジョンのもと、一歩一歩着実な歩みを進めてまいりました。時代による環境の変化を汲み取り、目標や計画の振り返りと見直しを重ねながら、常にすべての人と社会の未来を見据え、青山学院らしい事業を展開してまいりました。

そして、創立 150 周年を迎えた 2024 年 11 月、青山学院は 30 年後のありたい姿・あるべき姿を描いた「AOYAMA MIRAI VISION」と、そこからバックキャスティングした 10 年間の目標である「AOYAMA VISION 160」を新たに発表しました。これは、サーバント・リーダーを育成するための 4 つの教育要素を改めて共通認識として言語化し、サーバント・リーダーの育成をさらに推し進めていくものです。

この度、「AOYAMA VISION（2014-2024）」のもとで、2024 年までの 10 年間にオール青山で取り組んできた「世界と未来を拓く教育」「世界をリードする研究」「世界が求める社会貢献」「世界に誇る知的インフラ」の 4 Challenges の成果、そして新しい「AOYAMA VISION 160」の 3 Goals ＆ 3 Bases へと受け継いでいくものをまとめ、学院全体で総括いたしましたのでご報告いたします。

ご覧いただく皆様方には、本学院への日頃のご理解とご協力に感謝申し上げるとともに、今後も青山学院が社会に求められ続ける総合学園として躍進する姿を見守り、ご指導・ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

学校法人青山学院
理事長　堀田　宣彌
院　長　山本　与志春

AOYAMA VISION（2014-2024）

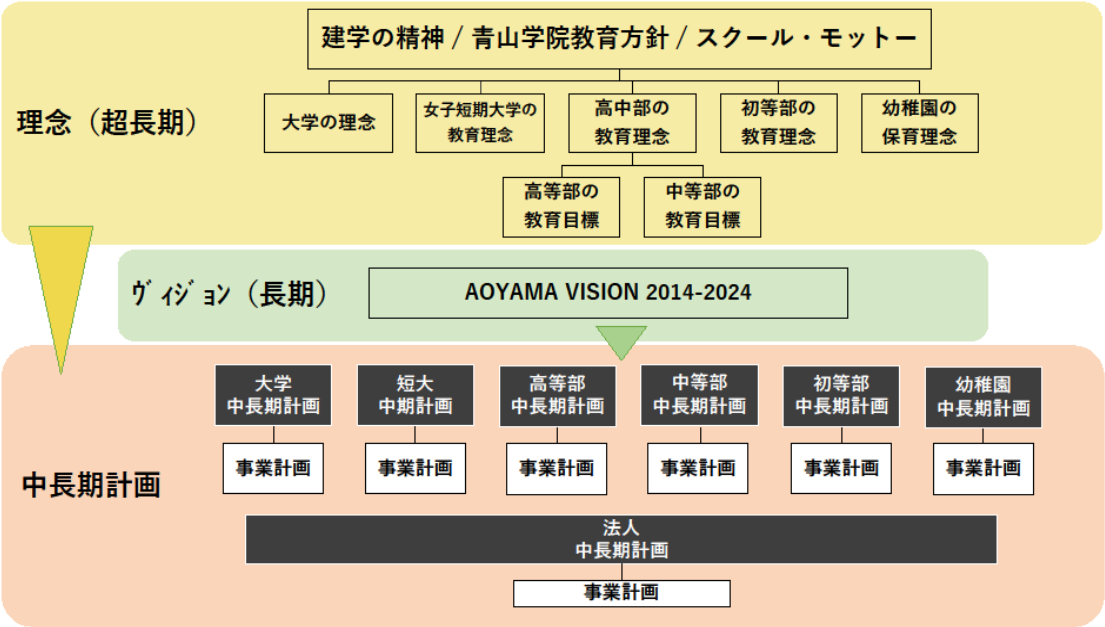
創立 140 周年を迎えた 2014 年に、青山学院は AOYAMA VISION（2014-2024）を発表し、青山学院の教育が目指す人物像「サーバント・リーダー」の育成をヴィジョンに掲げました。2017 年には、「AOYAMA VISION パワーアップ宣言　～青山学院 150 年への挑戦～」を発表し、2014 年に策定した AOYAMA VISION の「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する総合学園」というヴィジョンはそのままに、150 周年に向けて挑戦する学院の姿勢を示した「4 Challenges」の柱立てに再構成して、ヴィジョン実現に向けた取組を実行しました。

「AOYAMA VISION パワーアップ宣言　～青山学院 150 年への挑戦～」の 4 Challenges

中長期計画＜2020 年～2024 年＞

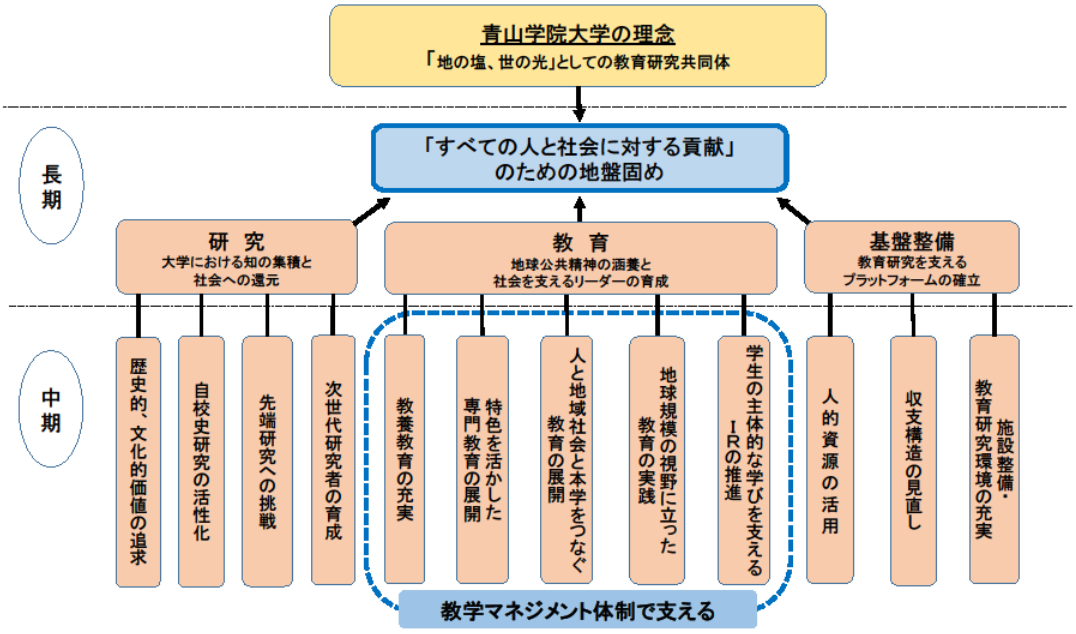
AOYAMA VISION の後半 5 年間は、ヴィジョン実現のための具体的な施策として、2020 年に中長期計画を策定し、これに紐づく事業計画・実行計画を立てて遂行しました。建学の精神等のミッションに基づき、各設置学校がそれぞれの教育理念・目標を活かしつつ、AOYAMA VISION によって学院全体で同じ方向性を持った中長期計画として、全学を挙げて取り組みました。

【青山学院中長期計画全体図】



※事業計画は、中長期計画を具体化した単年度の計画です。
※女子短期大学は、2022 年 10 月 27 日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は 2021 年度までを対象とする。

【大学の中長期計画構成図】



「青山学院・新経営宣言」　～Be the Difference～

2017 年 11 月に発表した「青山学院・新経営宣言」は、少子化、学校間競争の激化、グローバル化といった学校を取り巻く環境の変化に対応するための経営戦略の基本フレームであり、経営発展モデル構想を示したものです。そして 、“Be the Difference”は、「私たちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています。」（新約聖書 ローマの信徒への手紙第 12 章 6 節）と「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから」「その賜物を用いて互いに仕えなさい。」（新約聖書ペトロの手紙（一）第 4 章 10 節）とから導かれた経営スローガンです。

この経営スローガンは、「地の塩、世の光」というスクール・モットーとともに青山学院を支える価値観であり、学院に係わる一人ひとりの個性や各設置学校の独自性といった多様な価値を尊重し、幼稚園から大学院までを擁する総合学園として、時代と社会が求める世界に羽ばたくサーバント・リーダーの育成を目指すものです。

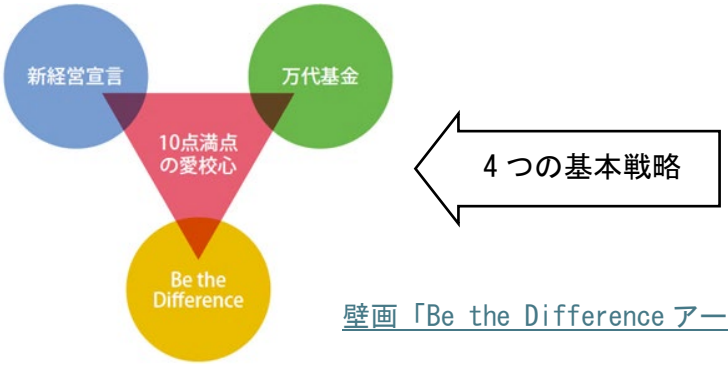
より良い教育・研究を実践していくには学院の財政基盤の安定が欠かせません。志ある若者の経済支援に心を砕いた万代順四郎（まんだいじゅんしろう）氏*1 の遺志を受け継いで、奨学金や質の高い教育・研究を行うための資金を充実させるため、万代順四郎氏の名前を冠した「万代基金*2」を設立しました。本基金の目標金額は、1,000 億円です。

この「万代基金」を支えるのは、校友、在校生、保護者等の青山学院に係わる全ての方の愛校心です。これらの方々から「10 点満点の愛校心*3」の評価を頂くに値する、魅力あふれる学院として、青山学院はこれからも成長・発展を続けます。

Be the DifferenNce®

Each of us can make the world a better place

“世界は一人ひとりの力で変えられる”



壁画「Be the Difference アート」はこちら

＊1）青山学院高等科卒業。三井銀行取締役会長、帝国銀行取締役頭取などを務め、戦後はソニー株式会社創立期の取締役会長や日本経済団体連合会常任理事として活躍した。青山学院では理事長・校友会会長などを歴任。

＊2）万代基金の中に「万代奨学基金」と「万代基本基金」がある。青山学院発展のために、主に万代順四郎氏からいただいたご寄付をもとに発足した「万代奨学基金」の趣旨を発展させるとともに財政基盤の充実を図る目的で「万代基本基金」を新たに設定した。給付型奨学金の充実と教育・研究の質的向上を最重要課題としている。（Ⅱ-1 参照）

＊3）青山学院に係わる方々へのブランドロイヤルティ（愛校心）調査の指標は、10 点をもって満点としている。

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4Challenges	世界と未来を拓く教育	大学	教育	教養教育の充実	・アカデミックライティングセンター開設（2017年度：青山、2018年度：相模原） ・2020～2023年度　全学的な教育基盤の確立と共通教育カリキュラムの再構築を実施（「データサイエンスの基礎を学ぶフレッシャーズ・セミナー」が令和5年度文部科学省「数理・データサイエンス・AI認定制度（リテラシーレベル）」に認定。日本語母語話者向け日本語ライティング教育の充実と交換留学生を含む非母語話者向け日本語教育の見直しの一環として全学で利用できる入門用コンテンツを完成 等）	①学術的な論文・レポートを執筆するための知識・技能を指導する「アカデミックライティングセンター」を開設した。また、デジタル社会における基礎的な素養として、学生が数理・データサイエンス・AIに関する知識を修得するための教育プログラムを構築し、これが令和5年度文部科学省「数理・データサイエンス・AI認定制度（リテラシーレベル）」に認定された。 ②予測困難な時代にあっては、主体的かつ協働的に価値創造できる人材の育成が必要と考える。AOYAMA VISION160では、本学らしいユニークな教育プログラムを発展させ、知の創造を促す教育プログラムの確立を目指す。	AOYAMA VISION 160へ継続	1
				特色を活かした専門教育の展開	・2019年度　「コミュニティ人間科学部」を相模原キャンパスに開設 ・2020年度　「3Dプリンターラボ AGU MAKES」を開設 ・2022年度　法学部に「ヒューマンライツ学科」を開設 ・2024年度　米国ハーバード大学ジェフリー・G・ジョーンズ教授招聘講演会を開催	①新たに「コミュニティ人間科学部」や「法学部ヒューマンライツ学科」を開設し、また、既存の学部研究科においてもこれまで蓄積してきた知見やノウハウを駆使したあらたな取り組みを行い、本学ならではの専門教育を展開している。 ②予測困難な時代にあっては、主体的かつ協働的に価値創造できる人材の育成が必要と考える。AOYAMA VISION160では、本学らしいユニークな教育プログラムを発展させ、知の創造を促す教育プログラムの確立を目指す。	AOYAMA VISION 160へ継続	2
				人と地域社会と本学をつなぐ教育の展開	＜ボランティアからサービス・ラーニングへの展開＞ ・2016年度　大学ボランティアセンター（青山）開設 ・2018年度　大学ボランティアセンター（相模原分室）開設 ・ボランティアセンターによるサービス・ラーニング正課科目の支援 ・2019年度　パイロット科目として青山スタンダード科目「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」（相模原）を開講（※先行する試みとして2010年度からキリスト教理解関連科目において「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ」（青山）が実施されている） ・2019年度　サービス・ラーニングパイロットプロジェクトが作成した教育成果指標を上記科目において運用開始 ・学生のみならず、教職員がボランティア活動に参加しやすい環境を整備（危機管理セミナー・防災ウィーク等のイベント開催）し参加機会の拡充を実現 ・ボランティアセンターによる取組を多数実施（被災地支援・国際協力・地域連携等の活動、各種セミナー・シンポジウム開催等） ・ボランティアセンターにてネパールプロジェクトで現地の大学と連携プログラム実施 ・2022年度　シビックエンゲージメントセンター開設 ＜連携協定＞ ・日本赤十字社とボランティア・パートナーシップ協定を締結 ・協定地（渋谷区、相模原市、町田市、岡山県総社市、滋賀県米原市、神奈川県大和市、埼玉県戸田市、福岡県田川市、秋田県仙北市、静岡県河津町、鳥取県、長崎県佐世保市、神奈川県鎌倉市、新潟県妙高市、千葉県佐倉市）との連携プログラムを実施 ・被災地（宮城県気仙沼市・塩竈市、岩手県宮古市）における教育・文化・まちづくり等の支援を実施 ＜東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会＞ ・オリンピック・パラリンピック競技組織委員会大学連携チーム主催イベント「Tokyo2020学園祭the2nd」を本学記念館にて開催 ・渋谷区主催事業「渋谷区オリ・パラ気運醸成事業　渋谷区長杯第2回ウイルチェアーラグビー大会」を本学記念館にて開催 ・TOKYO2020オリンピック新種目3×3（スリーバイスリー(バスケットボール)）の実演・体験会実施 ・オリンピック・パラリンピック関連ボランティア活動の学生参加の促進等、多様な活動を実施	①大学では、教育研究活動から得られた成果を通じて社会や地域に貢献するべく、様々な取り組みを行ってきた。幅広いボランティア活動を展開してきたボランティアセンターをシビックエンゲージメントセンターに改組し、活動の幅をボランティアから市民協働へと広げた。シビックエンゲージメントセンターでは、さまざまな地域団体・企業等との連携を活かした地域振興の取り組みや、ボランティアを含めた市民協働活動を正課の授業科目とリンクさせてサーバントリーダシップの教育を強化していく取り組みを行っており、今後も青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現するサーバント・リーダーの育成に向けた活動を発展させていく。また、社会人向けの高度な学び直しの場として、青山アカデメイアや履修証明プログラムを開発し、広く社会に開放することができた。2022年度には社会連携推進機構を設置し、本学の社会連携・社会貢献に係る全学的な取組を推進する体制を強化した。 ②予測困難な時代にあっては、主体的かつ協働的に価値創造できる人材の育成が必要と考える。AOYAMA VISION160では、本学らしいユニークな教育プログラムを発展させ、知の創造を促す教育プログラムの確立を目指す。また、生涯を通して社会で活躍するための高度な学び直しの場としての環境整備を推進し、教員・学生・社会人等による多様な思考や経験知を創出するためのリカレント教育を充実させる。	AOYAMA VISION 160へ継続	3

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4Challenges	世界と未来を拓く教育	大学	教育	人と地域社会と本学をつなぐ教育の展開	＜リカレント教育プログラム＞ ・2018年度 「青山アカデメイア」（社会人向け教育プログラム）を開講 ・2018年度 「東京外国語大学オープンアカデミー」に協力（東京外国語大学との協定に基づく青山キャンパスの提供） ・2019年度 履修証明プログラム 青山学院大学×東京外国語大学連携「司法通訳養成プログラム」を開講 ・2023年度 社会人向けDX人材育成プログラム「青山・情報システムアーキテクト育成プログラム」を開講 ・2024年度 地域・企業と連携した高度DX人材育成コンソーシアムを設立 ＜地域連携＞ ・2015年度 スポーツを通じて社会に貢献する人材やソリューションを提供する「スポーツキャリアプログラム」を開設。地域社会連携として「青トレ」を実施するなど、プログラム開発を進行中。2020年度には、スポーツ庁委託事業に採択され、産官学連携の「スポーツ健康イノベーションコンソーシアム」を発足 ・理工学部による夏休みこどもサイエンス教室開催 ・青山コモンズ、青山銀杏フェスの開催 ・クライシス・マッピング・ボランティア拠点設立準備 ・サンロッカーズ渋谷（プロバスケットボールチーム）への記念館提供、大相撲青山場所開催等 ・2022年度 社会連携推進機構を設置（社会連携機構を改組） ・2023年度 相模原市・町田市の複数大学・自治体・産業界が連携し、地域の発展や人材の育成に貢献する「相模原・町田地域教育連携プラットフォーム」を発足（本学も包括連携協定を締結し、本プラットフォームへ参画） ・2024年度 「社会連携センター」を設置 ＜その他＞ ・クラウドファンディングの利用（陸上部長距離と理工学部で実施） ・2024年度 VRキャンパス（青山・相模原）の構築と新しいコミュニケーションの創成を開始 ・2024年度 スクーンメーカー記念ジェンダー研究センターによる展覧会「アートから考えるアジアにおけるジェンダー問題」を開催 ・2024年度 在校生・卒業生のアントレプレナーシップの醸成及びスタートアップ支援等を目的とした「青山ビジネスプランコンテスト」を開催	※前ページ参照	※前ページ参照	3
				地球規模の視野に立った教育の実践	＜留学生の増加＞ ・交換留学・海外体験（派遣・受入）数の増加〔下表参照〕 ・サマースクール（海外大学からの短期留学受入れ）、海外大学からのインターン生受入れ（理工学部）実施 ・ASEAN諸国との交流の拡充（フィリピン、ベトナム、インドネシア） ・地球社会共生学部で半期留学を実施 ・協定校数の増加〔下表参照〕。5大陸すべてにおいて協定校のネットワークを構築 ＜海外留学奨学金制度の充実＞ ・派遣留学生・私費留学生への奨学金拡充（派遣留学生向け：青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金【世界トップレベル大学留学奨励奨学金】の拡充。私費外国人留学生向け：青山学院大学産学合同外国人留学生グローバル奨学金の拡充） ・2023年度 学位取得型留学給付奨学金を新設（海外大学とのダブルディグリー等のプログラムへの奨学金） ＜研究機関ネットワーク＞ ・IAMSCUリサーチ大学コンソーシアムタスクフォース設置、IAMSCU理事会に出席 ・IAMSCUと本学が共同で年1回シンポジウム開催 ・ACUCA STUDENT CAMP参加	①国際化推進組織を設置し、本学の国際化推進に向けた中長期的な方針を策定する体制を整備した。また、協定校の拡大、奨学金制度の充実、英語のみで受講できるコースの設置、留学生と在学生の交流拠点（インターナショナルコモンズ）の設置など、留学生支援の充実やキャンパスの国際化を図り、新型コロナウイルスの感染拡大などで影響を受けてはいるものの、2014年度と2019年度（パンデミック前）との比較で、派遣留学生の数は約100%、受入留学生の数は約70%増加している。 ②国際教育が本学のアイデンティティの一つであることを再認識し、留学の促進やキャンパスの国際化を推進することで、正課内外問わず海外の文化・人との交流の場を増やす。また、それらの機会を通して地球規模の視野を身につけ、文化や人により異なる価値観をイノベーションに昇華し地球社会に寄与する価値を生み出すことができる次代を牽引する人材を育成する。	AOYAMA VISION 160へ継続	4

年度		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
派遣	大学間協定校留学生数（人）	80	93	91	106	98	109	4	66	120	125	129
	学部間協定留学生数（人）	−	−	−	237	189	177	14	−	78	176	114
	その他の留学・海外体験（人）	343	571	561	665	582	594	103	167	622	654	697
	合計（人）	423	664	652	1008	869	880	121	233	820	955	940
増加率（%） ※2014年度対比			57.0	54.1	138.3	105.4	108.0	−71.4	−44.9	93.9	125.8	122.2
受入	大学間協定校留学生数（人）	79	98	101	108	129	157	−	1	150	235	250
	学部間協定留学生数（人）	−	−	17	21	28	21	−	−	30	28	29
	その他の留学生数（人）	377	392	427	452	499	599	630	578	504	492	521
	合計（人）	456	490	545	581	656	777	630	579	684	755	800
増加率（%） ※2014年度対比			7.5	19.5	27.4	43.9	70.4	38.2	27.0	50.0	65.6	75.4
協定校数		105	117	121	136	146	167	172	172	179	185	187
増加率（%） ※2014年度対比			11.4	15.2	29.5	39.0	59.0	63.8	63.8	70.5	76.2	78.1

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">分類</th><th rowspan="2">担当</th><th colspan="2">中長期計画</th><th rowspan="2">主な実施内容・成果</th><th colspan="2" rowspan="2">設置学校・担当部局による総括</th><th rowspan="2">SQ</th></tr>
<tr><th>長期</th><th>中期</th></tr>
<tr><td rowspan="2">4 Challenges</td><td rowspan="2">世界と未来を拓く教育</td><td rowspan="2">大学</td><td rowspan="2">教育</td><td>地球規模の視野に立った教育の実践</td><td>＜正課授業等における展開＞
・2018年度よりほぼ全面的な2学期制を実施
・イギリスのエセックス大学とダブルディグリープログラム協定を締結。2020年秋学期より留学開始
・2021年度　国際マネジメント研究科において、国際認証のEFMD Accredited MBA（世界のトップビジネススクールの認証機関「EFMD」が認定）を取得
・外国人留学生向けに日本を学ぶ科目として「日本学」（青山キャンパス）、「Traditional Art and Culture in Modern Japan/Topics in Japanese Culture Ⅲ」（相模原キャンパス）を開講中
・2024年度より、受入交換留学生のうち日本語未修者を対象とした英語による日本語クラスを新設
・2022年度秋より、IPJS (International Program for Japan Studies/国際日本研究プログラム)がスタート。受入交換留学生向けに、政治、歴史、言語、サブカルチャーなど、「日本」にまつわるさまざまな幅広いトピックに関する英語開講科目群を設置。
・青山スタンダードで英語による講義科目増
・経営学研究科 戦略経営・知的財産権プログラム (SMIPRP)は全講義英語で実施
・文学部英米文学科（PESE）・国際政治経済学部（Global Studies Program）でも英語講義のプログラム設置
・2020年度より東京外国語大学との単位互換に関する協定により、さまざまな外国語科目の履修が可能となった。2020年度はコロナ禍により単位互換が見送りとなり、実施ができなかったが、2021年度前期においては、14名の学生が東京外国語大学の外国語科目を履修している

＜その他の取組＞
・2023年度　英語対応カウンセラーの設置
・2024年度　従来のグローバル化ポリシーに代わる「国際化推進ポリシー」を策定、公開
・2024年度　従来の国際化推進に向けた青山学院のコミットメントに加え青山学院　国際教育ポリシー」を策定、公表
・2024年度　インターナショナル・コモンズの設置
・チャットルームの利用拡大〔下表参照〕
<table><tr><th colspan="2">年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr><tr><td rowspan="3">チャットルーム利用者数（人）</td><td>青山</td><td>9068</td><td>6854</td><td>10778</td><td>11308</td><td>11952</td><td>11549</td><td>4273</td><td>4549</td><td>3657</td><td>5413</td><td>4880</td></tr><tr><td>相模原</td><td>359</td><td>607</td><td>2286</td><td>2925</td><td>3387</td><td>3051</td><td>543</td><td>133</td><td>739</td><td>1962</td><td>1924</td></tr><tr><td>合計</td><td>9427</td><td>7461</td><td>13064</td><td>14233</td><td>15339</td><td>14600</td><td>4816</td><td>4682</td><td>4396</td><td>7375</td><td>6804</td></tr><tr><td colspan="2">増加率（%）　※2014年度対比</td><td></td><td>−20.9</td><td>38.6</td><td>51.0</td><td>62.7</td><td>54.9</td><td>−48.9</td><td>−50.3</td><td>−53.4</td><td>−21.8</td><td>−27.8</td></tr></table></td><td>※前ページ参照</td><td>※前ページ参照</td><td>4</td></tr>
<tr><td>学生の主体的な学びを支えるIRの推進</td><td>・2021年度　IR基盤整備プロジェクトを発足。データに裏付けされた教育課程等の点検・評価や改善・改革に取り組むためのIR機能を整備する（「TOEIC L&R IPテスト」を活用した学修成果の振り返り等）
・2024年度　IR推進室を設置</td><td>①2024年度にIR推進室を設置した。今後、同組織を中心として、教学IRの推進を図り、データに裏付けされた教育課程等の点検・評価や改善・改革に取り組む。

②予測困難な時代にあっては、主体的かつ協働的に価値創造できる人材の育成が必要と考える。AOYAMA VISION160では、本学らしいユニークな教育プログラムを発展させ、知の創造を促す教育プログラムの確立を目指す。</td><td>AOYAMA VISION 160へ継続</td><td>5</td></tr>
</table>

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
－－→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">分類</th><th rowspan="2">担当</th><th colspan="2">中長期計画</th><th rowspan="2">主な実施内容・成果</th><th rowspan="2" colspan="2">設置学校・担当部局による総括</th><th rowspan="2">SQ</th></tr>
<tr><th>長期</th><th>中期</th></tr>
<tr><td rowspan="2">4Challenges</td><td rowspan="2">世界と未来を拓く教育</td><td>大学</td><td>教育</td><td>その他
（中長期計画以外で実施した事項）</td><td>＜就職支援強化＞
・青山スタンダード科目「キャリアデザイン・セミナー」、新入生オリエンテーション、低学年企業見学＆ワーク等の実施
・早期選考の要となる3年生夏のインターンシップへの参加を推奨し、夏休み前の対策支援を充実させている。
・2年生対象のキャリアガイダンスにて、インターンシップの基本的な知識と、業界・企業選び、エントリーに関するノウハウを提供している。
・3年生の4月から7月にかけて、インターンシップ対策のガイダンス、面接対策セミナー、グループ面接体験会、インターンシップ参加の心得・マナー講座等を開催している。
・3年生の夏にインターンシップに参加した学生向けに、参加経験を活かして就活本番に向けて準備してゆくためのガイダンスを、9月以降に開催している。
・3年生の夏にインターンシップに参加しなかった学生向けに、これからの準備・対策や、冬期インターンシップ情報を提供するガイダンスを、9月以降に開催している。
・進路・就職支援システムWebAshにて、常時インターンシップの情報を掲載している。
・海外インターンシッププログラム実施数の拡大〔下表参照〕
・インターンシップ科目配置（単位化されたインターンシップ）
・校友による大学生の就職活動支援（在校生就職支援委員会によるOB/OGとの交流カフェ、模擬面接指導・業界研究等）を多数実施

<table>
<tr><th>年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr>
<tr><td>進路決定率〈学部のみ〉（%）</td><td>91.1</td><td>93.3</td><td>93.8</td><td>94.1</td><td>92.8</td><td>91.7</td><td>88.3</td><td>89.6</td><td>92.4</td><td>92.6</td><td>93.3</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr>
<tr><td>海外インターンシップ派遣数（人）</td><td>－</td><td>27</td><td>47</td><td>52</td><td>27</td><td>47</td><td>－</td><td>4</td><td>39</td><td>51</td><td>40</td></tr>
<tr><td>増加率（%）　※2015年度対比</td><td>－</td><td></td><td>74.1</td><td>92.6</td><td>0.0</td><td>74.1</td><td>－</td><td>−85.2</td><td>44.4</td><td>88.9</td><td>48.1</td></tr>
</table>

＜その他＞
・アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシー策定
・2017年度　科目ナンバリング導入
・2018年度入試より、児童養護施設に入所している者を対象とした「全国児童養護施設推薦」を導入</td><td colspan="2">※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外</td><td>6</td></tr>
<tr><td>女子短期大学</td><td>教育の継続</td><td></td><td>・長・中期留学、短期研修の実施〔下表参照〕
・TOEFL＆iBT対策講座の実施
・姉妹校との交流等
・オセアニア地域諸大学との交流等（幼稚園との連携などの取組も実施）
・メンター制度の拡充および手厚いキャリア支援を実施し、就職内定率を向上〔下表参照〕
・2017年度 「青山学院女子短期大学経済援助給付奨学金規則」を施行
・学生の健康に係る危機管理体制の再構築として危機管理・対応に係る文書を作成し、学内で共有
・東日本大震災被災地支援活動の各種プログラムを実施

<table>
<tr><th>年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th></tr>
<tr><td>長・中期留学・短期研修参加者（人）</td><td>42</td><td>37</td><td>34</td><td>27</td><td>23</td><td>19</td><td>－</td><td>－</td></tr>
</table>
<table>
<tr><th>年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th></tr>
<tr><td>就職内定率（%）</td><td>97.1</td><td>97.1</td><td>97.9</td><td>97.6</td><td>97.8</td><td>98.8</td><td>93.5</td><td>100</td></tr>
</table></td><td>①女子短期大学は一連の改組改革に基づき、21世紀における「覚醒した女性の育成」に向けたキリスト教に基づく女子高等教育を、AOYAMA VISIONのもとに本格的に展開してきた。カリキュラムに基づく教育とともに、ボランティア活動（2011年から始めた東日本大震災被災地支援において2014年に宮古市との連携協力に関する協定を結び、毎年原則2回ボランティア派遣。2016年から3回の熊本地震被災地支援）、学院内の設置学校間連携（ALL青山ボランティア活動として2014年8月宮古市で「青学day」開催等）、地域・社会・他大学連携（2017年度、宮古市・熊本市・室蘭市の子どもたちと、青山学院幼稚園児から大学生・教職員による「アートでつながる壁画プロジェクト」等）、生涯教育プログラム等（同窓会講演会を短大共催にして在学生の参加と交流を図る。渋谷区・港区教育委員会後援「公開教養講座」2018年度9回、2019年度7回実施）に取り組んできた。
「中長期計画（2020-2021）」において、これらを「正規学生が在籍する2021年度まで、‥‥継続して実施する」と記載したのは、学生募集停止後も、カリキュラムに基づく教育内容を維持確保するだけではなく、これまでに劣らぬ教育環境を整えて最後の一人まで卒業修了へと導き学生と社会に対する責任を果たすという女子短期大学の決意であった。
しかし「中長期計画（2020-2024）」が策定されてすぐ、2020年初頭より新型コロナウイルス感染拡大のため、通常の授業の実施自体が危機に陥った。その中でも、オンラインによるボランティア活動（「熊本にエール！宮古－青山－熊本　オンラインジャズコンサート」、シンポジウム「共に前へ　－コロナ禍時代の傷と絆－」2020年9月。大学ボランティア団体と協働）などを行ったが、2020年度以降は授業と学生活動を成立させる環境を整えることにまずは注力した。この緊急事態状況の中で、しかし教職員と学生が連携し、対話し、向き合いながら授業・学生生活を成り立たせようという協力が生まれ、質の高い充実した教育が展開されたことは特筆すべきである。
予定していた最短の2021年度（正規学生としては専攻科子ども学専攻生のみ在学）ですべての学生が卒業・修了したこと、最後の学友会活動が2020年度もオンライン中心に活発に行われたこと、そして最後の正規学生となる専攻科子ども学専攻修了生が全員学士の学位を取得するという快挙をもたらして有終の美を飾ったことが、その成果をあらわしている。</td><td>完了</td><td>7</td></tr>
</table>

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">分類</th><th rowspan="2">担当</th><th colspan="2">中長期計画</th><th rowspan="2">主な実施内容・成果</th><th colspan="2" rowspan="2">設置学校・担当部局による総括</th><th rowspan="2">SQ</th></tr>
<tr><th>長期</th><th>中期</th></tr>
<tr><td rowspan="3">4 Challenges</td><td rowspan="3">世界と未来を拓く教育</td><td>女子短期大学</td><td colspan="2">SDGsへの取り組み</td><td>総括を参照</td><td colspan="2">①SDGsは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された開発目標であるが、女子短期大学もまた、2001年に学則第一条（目的）を改定し「覚醒した女性の育成」を教育理念と定め、21世紀に求められる教養教育に向けた改組改革を積み重ねてきた。
すなわち子どもを通して人間を探求する子ども学科設置（2006年度）、課題解決型の学びを通した人間力の養成に焦点を当てた現代教養学科設置（2012年度）、そしてその際に全学を貫く教養教育のコアを定めたこと（「女性と現代」「共生」「表現」の3つの教養コア科目群）、さらに大学改革支援・学位授与機構の認定を受けた専攻科子ども学専攻、現代教養専攻・多元文化専攻設置（2014年度）が行われてきた。
青山学院において2019年4月に実施されたSDGsの取り組みに関するアンケートにより、女子短期大学では「4. 質の高い教育をみんなに」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「16. 平和と公正をすべての人に」を意識した取り組みが多くなされていることが示されているが、それはこれらの全学的な抜本的改組改革の取り組みの、時宜に適った成果であると考える。その中で「5. ジェンダー平等を実現しよう」の取り組みが特に多く実施されているのも、女子の高等教育機関であるということに加え、現代教養コア科目「女性と現代」科目群（16科目）が設置されたことによるところが大きい。
学生募集停止後も最後までSDGsに向けた取り組みは継続され、2021年度青山学院グローバルウィークにおいても、専攻科子ども学専攻において「総合科目「子ども」におけるSDGsに関する授業」を行った。</td><td>完了</td><td>8</td></tr>
<tr><td rowspan="2">高等部</td><td>教育改善</td><td>・2015～2019年度 「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」に指定。①英国リーススクール、イタリア・パスカル校、英国イートン校との交流プログラム②多文化共生キャンプ③フェアトレード問題への取り組み④被災地高校との交流⑤カナダホームステイプログラム⑥大使館レクチャーシリーズ 等の様々な取り組みを展開。
・英国リーススクール、イタリア・クレスピ校との姉妹校協定
・長期・短期留学プログラムの実施［下表参照］
・「グローバルウィーク」（年2回）において、生徒が主体となって国際交流プログラムに係る活動の報告・イベントを実施
・様々な教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノート（学習ノート）である「LogBook」を制作。2年次から3年次にかけて、一つのテーマを決めて研究論文に取り組む
・電子黒板・タブレット端末の導入による授業展開を実施（さらに端末の台数を増やしたり、活用機会を拡大するなどICT機器による教育充実の取り組みが進行中。2020年度新入生より一人一台端末を導入し、2022年度には全校での導入を完了している。）
・2022年度からスタートする高校の新学習指導要領に対応した高等部の新カリキュラムを策定。「探究的な学び」の推進に向けた教育プログラム全般の改革を図る
・高等部にふさわしいスクールポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、グラデュエーションポリシー）を新たに文言化した。またその推進に伴い、ふさわしい成績評価、内部進学制度に向けた教育プログラム全般の改革を図る。
・2022年度より一人一台端末が導入され、ICT教育には今後も力を入れ、よりわかりやすく、より効率的効果的な授業を行う。
・コロナ禍が終わり、これまで行ってきた短期留学制度（英国リーススクール、イタリア・クレスピ校）、カナダホームスティプログラム、東ティモールスタディツアー、フィリピン支援チャイルド訪問プログラム、長期留学生の受け入れ等はすべて再開し、その他にもサーバント・リーダシップを学べるアメリカでの研修ツアーを実施する（2024年度視察、2025年度より実施予定）。
・英語教育においても、より一人ひとりのコンピタンスをあげるべく、2023年度より専任待遇教員を増員した。
・2024年度より、教員一人一人の教育技術改善を目的として外部団体から講師を招いて、ファシリテーションの研修を3年間かけて行うこととし、2024年度は夏の研修会、また2月に振り返りの研修として2度行った。
<table><tr><th colspan="2">年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr><tr><td rowspan="2">長期・短期留学プログラム参加者（人）</td><td>派遣</td><td>24</td><td>24</td><td>26</td><td>29</td><td>44</td><td>31</td><td>4</td><td>7</td><td>16</td><td>21</td><td>25</td></tr><tr><td>受入</td><td>15</td><td>18</td><td>19</td><td>16</td><td>22</td><td>19</td><td>－</td><td>－</td><td>5</td><td>16</td><td>16</td></tr><tr><td colspan="2">カナダホームステイプログラム参加者（人）</td><td>30</td><td>29</td><td>20</td><td>27</td><td>29</td><td>30</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>25</td><td>25</td></tr><tr><td colspan="2">東ティモール訪問プログラム参加者（人）</td><td>－</td><td>－</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>2</td><td>4</td></tr></table></td><td>①国際交流プログラムは、カナダホームスティプログラム、イギリスリーズ校との交換留学、フィリピン訪問プログラムは以前通り継続、その後東ティモールスタディツアー、イタリア・クレスピ校との提携（レニャーニ校との提携は終了）を新たに加え、さらにアメリカでのサーバント・リーダーシップ研修の下見を2024年度に完了し、2025年度よりスタートすることとなった。
新学習指導要領に基づく、新カリキュラムを編成していく中で、学校全体で高等部の教育について考え、探究学習に力点を置いていくこと目指し、各教科で教育目標等を確認し、73期生よりスタート。それに伴い、2024年度より自由選択科目も導入され、生徒の主体的な学びが促進された。
内部進学も探究的な学びの促進に伴う形で見直され、大学との連携の中で、学力テスト1回や内進基準の上方修正が行われ、より現在の高等部の教育にふさわしいものとなった。
またスクールポリシーも見直され、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、グラデュエーションポリシーが新たに文言化でき、高等部の教育がどこを目指すかがより鮮明化できた。

②教育改善はこれからも継続していく必要がある。まず教員の教育技術の改善のために、2024年度から始まったファシリテーション研修は2026年度まで継続し、必要に応じて、さらにその後も継続していくこともありうる。また3年間全体の教育活動の見直しも必要である。</td><td>AOYAMA VISION 160へ継続</td><td>9</td></tr>
<tr><td>その他
（中長期計画以外で実施した事項）</td><td>・2011年度より、東日本大震災で被災した宮古市の高校と交流を開始。生徒会執行部、文化祭実行委員、クラブ活動を通じた交流を継続
・2024年度 「大学相模原キャンパス見学会」（4学部による研究室ツアー、在校生との懇談会、ワークショップ等の企画）を実施
・内部進学制度を見直し、大学との連携を通して、学力テストを2回から1回へ、基準を若干上方修正した。</td><td colspan="2">※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外</td><td>10</td></tr>
</table>

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4Challenges	世界と未来を拓く教育	中等部	教科教育の充実		・電子黒板・タブレット端末の導入による授業展開を実施（さらに端末の台数を増やしたり、活用機会を拡大するなどICT機器による教育充実の取り組みが進行中。2021年度新入生より一人一台端末を導入し、2023年度には全校での導入を完了） ・SEED BOOKSを使った英語授業の実施 ・2023年度　オンライン英会話、オンライン多聴多読システム（オックスフォード・リーディング・クラブ）の導入 ・3年生の選択授業（20以上の講座）、大学生による放課後の学習サポート（スタディールームボランティア）等を実施	①【ICTの活用による教育の展開】 ・新型コロナウイルスの感染拡大により登校ができない期間中も、生徒の学びの機会を守るべく、中等部では2020年4・5月の授業をオンラインで実施した。以前より授業や学校からのお知らせ、クラブ活動の連絡に使用していたCoursePower（授業支援システム）を活用して、授業のオンデマンド配信やホームルームのライブ配信、生徒からの質問対応等を行った。このオンライン教育期間を経て、1人1台端末環境の整備を加速することとなり、2021年度入学生より1人1台端末を導入することが決定した。この端末は、各教科の授業のほか、定期テストの振り返りやキャリア教育の記録等、自己の学びを振り返るポートフォリオとしても活用している。生徒・教員双方の利用状況を調査し、2022年度入学生への導入や2年次の運用についても検討を行った。年次進行で、2023 年度には全学年で1人1台端末環境が整った。 ・中長期計画に掲げていた一人一台のタブレットの導入は、2023年度をもって完了した。2024年度に初中高ICTセンター規則を制定し、2025年度4月よりICTセンターが稼働した。今後も初等部、高等部と連携を取りながら、情報教育の一貫性や機種選定・使用のルールの策定などを進めていく。また、2025年度より、ICT担当職員に加え、業務委託の技術者とパート職員を配置し、生徒、教員のサポート体制が強化される。 ②【AOYAMA VISION 160への継続】 ・ICT環境を整えることや一人一台の端末利用はすでに当たり前のものとなっている。次なるステップは、基礎学力を定着させるとともに、学校ならではの主体的な学びにつなげていくかである。選択授業や各方面で活躍する卒業生の講演や授業への参加を通し、生徒一人一人の興味関心を伸ばす授業展開を進めていく。 ・デジタルツールを使いこなすための環境整備は継続して進める。また、SEED BOOKSによる英語授業、オンライン英会話、オンライン多聴多読システム、3年生の選択授業、大学生による放課後の学習サポートにういて今後も継続する。	AOYAMA VISION 160へ継続	11
			新校舎・新礼拝堂の活用		・2017年度～　教科センター方式を導入した新校舎での教育開始（2019年度完成）	①【教科型教室環境における新しい教材、教育ツールの導入】 ・新校舎に導入した「教科センター型教室」では、生徒の作品展示やグループワークの拠点となる各教科のメディアスペースをはじめ、教科ごとの多様な教育環境を整備し、学習方法を工夫することで、ハード・ソフト両面から生徒の学力向上を図り、教育効果を高めている。生徒を対象とした学習状況アンケートの実施やメディアスペース利用記録の活用により、今後も新しい教育手法の開発に取り組んでいく。 ・2020年春からの新型コロナウイルスの影響で、人の動きを制限せざるを得ず、教科センター型校舎の運用を制限せざるを得なかった。2017年度4月に本校舎が完成し、その年度に入学した71期生が3年生の3月にコロナが流行したため、3年間教科センター型校舎の運用の中で学習した生徒は1学年のみにとどまった。教科教室型から教科センター型校舎への移行は、新しい校舎の建築、引っ越し等、時間がない中で行われたため、運用してみなければ見えない課題もあった。しかしコロナの空白の3年間は運用面で明らかになった課題を考えるよい期間ともなった。2024年度より新しい形での教科センター型校舎の運用を開始した。 ②【AOYAMA VISION 160への継続】 ・教科センター型校舎の活用とそれぞれの教科の特徴を生かした授業展開は両方がそろって効果を発揮する。これまで以上に各教科が新しい時代に即した授業展開、展示をおこなうことにより、生徒の興味関心を引き出し、一貫教育のメリットを生かせる教育を提供していく。 ・教科センター型校舎を活用した授業展開について、引き継き検討する。また、メディアスペースの展示の充実・工夫により教科の魅力を発信していく。	AOYAMA VISION 160へ継続	12

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">分類</th><th rowspan="2">担当</th><th colspan="2">中長期計画</th><th rowspan="2">主な実施内容・成果</th><th colspan="2" rowspan="2">設置学校・担当部局による総括</th><th rowspan="2">SQ</th></tr>
<tr><th>長期</th><th>中期</th></tr>
<tr><td rowspan="5">4 Challenges</td><td rowspan="5">世界と未来を拓く教育</td><td rowspan="3">中等部</td><td colspan="2">新しい海外プログラムの実施</td><td>・オーストラリアホームステイの実施
・韓国（梨花女子大付属中）学校訪問の実施　※韓国とフィリピンは隔年で実施
・2023年度　北京訪問プログラムを実施（中等部生と北京大学附属中学との交流、中国文化・歴史を学ぶ北京市内名所見学）
・2024年度　イギリス語学研修プログラム（サマーキャンプ）を実施（世界各国から集まった生徒たちと寮生活を送りながら、レベル別の英語レッスン、アクティビティーを体験）

<table>
<tr><th>年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr>
<tr><td>オーストラリアホームステイ参加者（人）</td><td>21</td><td>17</td><td>17</td><td>20</td><td>16</td><td>17</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>15</td><td>20</td></tr>
<tr><td>韓国（梨花女子大付属中）学校訪問参加者（人）
※隔年実施</td><td>10</td><td>－</td><td>12</td><td>－</td><td>17</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>13</td><td>－</td><td>20</td></tr>
<tr><td>イギリス語学研修プログラム（サマーキャンプ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr>
<tr><td>北京訪問プログラム参加者（人）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>17</td><td>－</td></tr>
</table>
</td><td>①【新規海外研修プログラムの導入】
・生徒に多様なグローバル体験の機会を提供するとともに、学校間交流の活性化を図るため、新たな国際交流プログラムの導入に取り組んだ。従来から実施しているオーストラリアホームステイ、韓国（梨花女子大付属中）学校訪問、フィリピン訪問プログラムに加えて、中国訪問プログラム、イギリス語学研修プログラム（サマーキャンプ）を企画・実施した。
・中国訪問プログラムは本学教員が現地を視察し、北京市内の中学校を複数訪問して交流プログラムの実現に向けた調整を行い、北京大学附属中学校等との交流を実施した。各学校を訪問して生徒が一緒に学ぶ活動や、北京市内の名所を巡り中国の文化と歴史を学ぶ研修を組み合わせたプログラムとなった。2024年度には1月に北京大学附属中学校の生徒20名の中等部への来校があり、礼拝、授業を通じて交流を深めることが出来た。
・イギリス語学研修プログラムは、10人ずつ2つの学校（ベサニー、クランブルック）に分かれ、寮生活を行った。寮は各国の生徒が混合で2～6人部屋で生活をした。参加者は仏・伊・西・葡・台湾・ペルーなど。午前中英語レッスン、午後は各自アクティビティを選択した。

②【AOYAMA VISION 160への継続】
・オーストラリアホームステイプログラムは、より中等部にふさわしい内容とするため、2025年度から新たな現地交流校を選定し、変更する見込みである。
・韓国訪問プログラムは2024年度の3月に梨花女子大附属中に20名の生徒が訪問した。2025年6月には、韓国から梨花女子大附属中が来日し、交流する予定である。
・中国訪問プログラムについては、日本と中国は歴史的にも深いつながりがあり、経済的にも今や最もつながりが深い国となっていることから、政治的には両国の間に様ざまな問題をかかえているが、だからこそ、民間同士による、特に次代を担う若者同士のお互いの名前を呼び合っての継続的な交流が大切だと考える。
・フィリピン訪問プログラムは、従来どおり、初等部・高等部と連携し、中等部は隔年で参加する。</td><td>AOYAMA VISION 160へ継続</td><td>13</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他
（中長期計画以外で実施した事項）</td><td>・養護老人ホームでの奉仕活動、震災被災者支援募金活動、チャイルド・ファンド・ジャパンを通してのフィリピンの子ども支援
・学校案内英語版を作成</td><td colspan="2">※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外</td><td>14</td></tr>
<tr><td rowspan="3">初等部</td><td>ICT教育の推進</td><td>・電子黒板・タブレット端末の導入による授業展開を実施（さらに端末の台数を増やしたり、活用機会を拡大するなどICT機器による教育充実の取り組みが進行中。2020年度より3～6年生を対象に一人一台端末を導入している。）
・2021年度～　初等部独自のプログラミング学習を実施
・2023年度　青学つくまなラボ（青山学院大学 革新技術と社会共創研究所プロジェクト）を活用した新しい学びの導入</td><td>①2020年から導入したタブレットPCについて、3年生より各家庭で購入いただき、その流れは現在も続いている。購買会を通して購入をお願いしている。購入モデルは2台で保護者が選択できるようにしている。授業ではOffice365やAdobeのアプリを使った学習を進め、4年生からはプログラミング学習も継続し進めている。

②2023年度から初等部では3年生以上は自分の端末で学習を進めている。デジタル教科書やAIドリルの活用は5、6年生で行い、教材アプリ「モノグサ」を導入し、学校や家庭でもAIドリルを活用して学習効果を高めている。今後もこれらの取組を継続していく。</td><td>AOYAMA VISION 160へ継続</td><td>15</td></tr>
<tr><td>グローバル教育の推進</td><td>・SEED BOOKSを使った英語授業の実施
・2017年度～　グローカルプログラム（Christian Academy in Japanとの交流）の実施
・オーストラリアホームステイ（Good Shepherd Lutheran Collegeとの交流）の実施
・2018年度～　サマープログラム（イングランドサマープログラム）の導入
・多言語の「初等部さんぴか」作成
・2023年度～　教員対象グローバルセミナーの実施

<table>
<tr><th>年度</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr>
<tr><td>オーストラリアホームステイ参加者（人）</td><td>28</td><td>22</td><td>48</td><td>39</td><td>16</td><td>12</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>22</td><td>20</td></tr>
<tr><td>イングランドサマープログラム参加者（人）</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>9</td><td>17</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>24</td><td>22</td></tr>
</table>
</td><td>①初等部のグローバル化に向けて、左記の全ての実施事項を円滑に進めることができた。

②AOYAMA VISION 160に向けて、オーストラリアホームスティ・プログラムとイングランドサマー・プログラムを継続していく。また、フィリピン訪問プログラムも現在行っているが、AOYAMA VISON 160に向けて併せて実施し、グローバル教育を更に進めていく。</td><td>AOYAMA VISION 160へ継続</td><td>16</td></tr>
<tr><td>体験型本物教育の継続</td><td>・宿泊行事（洋上小学校、雪の学校）、国内短期留学（秋田金足西小学校（秋田県秋田市）、北陸学院小学校（石川県金沢市）、止揚学園（滋賀県東近江市））</td><td>①コロナ禍を経て、2024年度には全ての宿泊行事を実施することができた。また、国内短期留学も、相手校の事情に合わせながら、概ね元の形に戻すことができてきた。
キャンパスを出て、現地だから見られるものや聞けることから学び、現地だからできることを体験し、「生きる力」を育むことができた。

②ICTの普及により、バーチャルな体験が増える中で、体験学習はその重要性を増している。今後も本物に触れ、本物を経験する教育を継続し続けられるように環境を整えていく。</td><td>AOYAMA VISION 160へ継続</td><td>17</td></tr>
</table>

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画 長期	中長期計画 中期	主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
4Challenges	世界と未来を拓く教育	初等部	総合活動等を通してのサーバント・リーダー育成		自分たちが自分たちの学校をよくするために働くことから学ぶプロジェクトの実施 ・宗教プロジェクト：礼拝奉仕活動 ・運動プロジェクト：ラジオ体操の手本としての活動 ・環境プロジェクト：チャンスフラワー(捨てられてしまう花を校内に飾り、活かす)活動　など	①総合活動等を通してサーバント・リーダー育成をはかった。（6年・5年・保健・SDGs・販売・新聞・デジタルインフォメーション・防災・ホームページ・学習センター・放送・給食プロジェクトでもサーバント・リーダーとしてのはたらきが行われた） ②引き続き5、6年生の総合活動で培った力を学校行事（5年海の生活、6年洋上小学校、雪の学校）でも生かしながらサーバント・リーダーの育成につとめる。	AOYAMA VISION 160へ継続	18
			食育の充実		・「木曜ランチョン」を中心とする食育を実施 ・2021年度　ランチョン50周年企画『パンと水Ⅱ』を発行	①「パンと水Ⅱ」は2021年11月に発行することができた。 2024年度はコロナ禍で変わってしまった給食・ランチョンのスタイルが段階を踏みつつ、ようやく元の形に戻すことができた。 ②2025年度以降も、伝統ある初等部の給食・ランチョンを提供し続ける。単に食事を提供するだけでなく、食事を生きた教材として子どもたちと共に生きる力を学ぶ機会の提供の継続をしていく。共に準備し、神様からいただいた恵みに、作って下さった方々に感謝し、祈りをささげ、共にいただく。その際も共に食卓を囲んでいる方々への心配り、適切な会話を通じ交流を持つ。食堂では異学年の交流もあり上級生はサーバント・リーダーとしてのリーダーシップを、下級生は自分のできることをしながらフォローシップを学ぶ。 伝統ある初等部給食の本質を変えることなく、持続可能な運用方法を整えていく。	AOYAMA VISION 160へ継続	19
			その他 （中長期計画以外で実施した事項）		・卒業生が自分の仕事について紹介する「ようこそ先輩」を実施 ・奨学金給付制度の確立（2015年度に募集要項作成） ・2024年度　初等部礼拝堂からステークホルダー（保護者等）への礼拝等映像配信を開始	※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外		20
		幼稚園	キリスト教保育を通した、神と人とに仕える人間形成		・毎日のお祈り、礼拝堂での学年ごとのお祈り等の実施 ・2021年度より、SDGsに関する取組を保育カリキュラムに導入（平和：礼拝でのお祈り、貧困：献金活動、エネルギー：コンポストを活用した園庭菜園 等）	①キリスト教信仰を土台とした礼拝を中心に保育を行う中で、子どもも保育者も創造主である神さまを信頼し歩んで来た。神さまは創られた全てのものを「よし」とおっしゃられた。全ての命が、一人ひとりが、大切にされる世界を求めて生きるようにと願い、保育を計画し実践した。 ・ロシアによるウクライナ侵攻を機に始めた月に一度の「平和を祈る会」を継続して行なった。戦禍にある方々、貧困、災害などについて、幼児にも理解しやすい形で祈りの課題を共有し、祈りを合わせた。また、毎回保護者会ボランティア班が中心となり、献金を集め、キリスト教の団体を通して、必要とされているところにお送りした。特に難民の問題にも目を向け、保育者も改めてこのことを学ぶ機会を得た。 ・ジェンダー平等についての取り組みとそのための保育者の学びにも重点を置いてきた。礼拝を中心とした保育の中でLGBTの方々についても当然のこととしてその命と尊厳が大切にされるべきであると子どもたちは受け止めている。更に、多様な家族の在り方や生き方を知る手立てとして今後引き続き優良な絵本を用いていく。 ・フードロスを出さないという目標については、月に一度の会食に於いて残飯を出さない工夫と子どもたちへの声かけを続けている。スターバックスコーヒーに年長組の子どもたちがコーヒー豆かすを引き取りに行き、コンポストでの再利用をしているほか、コーヒー豆かすを使用した染め物を保育の中で実施している。 ②主イエスキリストの父なる神様の御名によって建てられた青山学院幼稚園にとって、キリスト教保育を通した、神と人とに仕える人間形成という課題は、最も重視されるべきものであり、今後も永久に継続していく。	AOYAMA VISION 160へ継続	21
			遊びを通した非認知能力の養成		・飼育している動物のお世話を通したいきものを大切にする教育の実施 ・多言語の絵本コーナーの充実、日本と世界の文化に触れる体験等を取り入れた保育の実施	①遊びを中心とした保育の中で好きなことに取り組み、探求し、試行錯誤し、仲間と協力し合い、達成感を得て次への意欲を抱くという経験を日々積み重ねた。また、友だちとの毎日のなかでは、時には思いや意見の違いから喧嘩になることがあっても、保育者の助けを得ながら話し合い、折り合いをつけたり、時には折り合いがつかず喧嘩別れとなるような経験をも積み重ねた。このような生活の中で、目に見えず数字には表せない「生きていくために必要な力」「非認知能力」を子どもたちは日々獲得していると言える。 ②創立以来遊びを中心とした保育を行ってきた本園は、今後も永久的に子どもたちの遊ぶための時間と空間を保障し、支え手としての保育者の学びと研究を実践し継続する。	AOYAMA VISION 160へ継続	22

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画 長期	中長期計画 中期	主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
4Challenges	世界と未来を拓く教育	学院	その他 （中長期計画以外で実施した事項）		＜学校間連携の強化＞ ・大学、短大、高等部における連携として 「高等部生徒による大学授業の履修」「学問入門講座」「国際理解・留学準備プログラム」 を実施(コロナ禍以降、オンデマンド配信) ・中等部における連携として、大学生が中等部生の放課後の学習をボランティアでサポートする「スタディルーム」を実施 ・初等部、幼稚園における連携として、児童と園児が交流する「一緒に遊ぼう会」を実施 ・系属校との接続プログラム実施 ・2024年度　初・中・高等部と大学との連携で行う国際化（正規の授業及び課外授業※1）の実施 （世界の小中高生のオンラインによる国際協働学習を推進する国際NGO「iEARN」への参入） ・2024年度　国際協働学習を推進する「International Education and Resource Network（iEARN）※2」に参加した大学生ジェイアーン Youth Projectによる国際化（課外授業）の実施 （※1初等部は特別授業で実施） （※2世界の小中高生のオンラインによる国際交流・国際協働学習を推進する国際NGO） ＜校友と学院・在校生による連携強化＞ ・ようこそ先輩（初等部）、卒業生による特別授業（中等部）、卒業生による進路指導説明会の実施及び世界的に活躍している卒業生によるグローバルウィークへのメッセージビデオレター（高等部） ・校友による大学生の就職活動支援（在校生就職支援委員会によるOB/OGとの交流カフェ、模擬面接指導・業界研究等）を多数実施 ・大学同窓祭等、校友と在校生が交流する各種企画の開催支援 ＜自校史教育の推進＞ ・資料センターや宗教センター等による展示などの企画を通じた自校史教育の支援	※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外		23
	世界をリードする研究	大学	研究	歴史的、文化的価値の追求	・フォルジャー・シェイクスピア・ライブラリーとの協定に基づくミランダ・プラットフォームを利用した稀覯本のデジタルイメージ化（2020年度に本学所蔵の稀覯本のデジタルイメージをミランダ・プラットフォームのウェブサイトで公開）	①フォルジャー・シェイクスピア図書館（ワシントンD.C.）と提携し、デジタルアーカイブプロジェクトを発足。本プロジェクトにおいて、本学が所蔵する貴重書を良好な保存状態のまま、1ページずつデジタル化・カタログ化を行ったことで、貴重書へのオンラインアクセスが実現した。 ②先端研究と基礎研究が相互に連関し高度に展開された研究機関として発展していくために、個々の研究者がその専門分野を生かし、ときにさまざまな専門分野における知見を融合しながら、学問の自由に基づき独自かつ青山学院大学らしい研究を展開することができる研究サポート体制を確立する。また、研究成果を効果的に発信できる方策を検討し、新たな価値創出の可能性を広げていき、持続可能な社会の実現に貢献する。	AOYAMA VISION 160へ継続	24
				自校史研究の活性化	・2016年度『本多庸一関係資料目録』、2017年度『高木壬太郎資料目録』、2018年度『青山学院一五〇年史　資料編Ⅰ』、2020年度『青山学院一五〇年史　資料編Ⅱ』、2021年度『青山学院　近現代史研究』（研究所紀要）、2022年度『青山学院一五〇年史 通史編Ⅰ』、2024年度『青山学院一五〇年史 通史編Ⅱ』及び『写真に見る青山学院150年』を刊行 ・2021年度　大学附置青山学院史研究所を設置 ・大学附置青山学院史研究所の研究成果を各設置学校の授業等に活用	①2021年度に「青山学院史研究所」を設置し、さらに研究を進めるとともに、その研究成果を各設置学校の授業等に活用することができた。また、青山学院一五〇年史編纂事業として、資料編Ⅰ・Ⅱ、通史編Ⅰ・Ⅱおよび別冊を刊行した。 ②先端研究と基礎研究が相互に連関し高度に展開された研究機関として発展していくために、個々の研究者がその専門分野を生かし、ときにさまざまな専門分野における知見を融合しながら、学問の自由に基づき独自かつ青山学院大学らしい研究を展開することができる研究サポート体制を確立する。また、研究成果を効果的に発信できる方策を検討し、新たな価値創出の可能性を広げていき、持続可能な社会の実現に貢献する。	AOYAMA VISION 160へ継続	25
				先端研究への挑戦	・2018年度 「統合研究機構（総合研究所、総合プロジェクト研究所）」を設置 ・2018年度 「理工学部附置先端情報技術研究センター（CAIR）」を設置 ・2016年度 「次世代ウェルビーイング事業」で私立大学研究ブランディング事業支援対象校に選定され、2017年度より相模原でリエゾンプロジェクト開始。（2019年度リエゾンセンター発足） ・2018年度 「AI研究拠点」を理工学部附置先端情報技術研究センター（CAIR）内に発足 ・2018年度　統合研究機構内に「シンギュラリティ研究所」（2021年度より「革新技術と社会共創研究所」に移行）、「ジェロントロジー研究所」を設置 ・2019年度 「SDGs関連研究補助制度」を創設 ・2021年度 「スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター」を開設 ・2021年度 「革新技術と社会共創研究所」を設置 ・2022年度 「ライフサイエンス研究センター」を開設 ・2021～2023年度　体力・健康の維持増進や運動のパフォーマンスを向上させるための新しい運動処方の研究開発基盤を形成 ・2024年度　総合プロジェクト研究所内に「ヘルスイノベーションセンター」を設置 ・2022年度　総合プロジェクト研究所内に「超小型宇宙機研究所」を設置	①2018年度に「統合研究機構」を設置し、全学的な視野で研究を推進する体制を確立することができた。さらに2019年度には、地域・企業のニーズを踏まえ、受託研究・共同研究を促進するべく「統合研究機構」に「リエゾンセンター」を設立した。このほかにも、「ジェロントロジー研究所」「スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター」等、本学が積み上げてきた知見を活かし時代の要請に応えられるような研究を進めるための体制も整備し、大学全体として更なる研究力の向上に努めている。 ②先端研究と基礎研究が相互に連関し高度に展開された研究機関として発展していくために、個々の研究者がその専門分野を生かし、ときにさまざまな専門分野における知見を融合しながら、学問の自由に基づき独自かつ青山学院大学らしい研究を展開することができる研究サポート体制を確立する。また、研究成果を効果的に発信できる方策を検討し、新たな価値創出の可能性を広げていき、持続可能な社会の実現に貢献する。	AOYAMA VISION 160へ継続	26
				次世代研究者の育成	・2019年度 「青山学院大学データサイエンティスト育成プログラム」（大学院生対象）開講。2021年度より、社会人向け講座も開講。 ・2019年度 「若手研究者育成奨学金制度」を導入	①若手研究者や大学院生を対象とした研究支援制度、奨学金制度を導入した。 ②大学院生及び学部生の専門教育の充実とその学習環境の基盤整備を推進し、研究力強化の鍵である優秀な次世代研究者を育成する。	AOYAMA VISION 160へ継続	27
				その他 （中長期計画以外で実施した事項）	＜産学連携＞ ・文科省による採択プログラム（2014年度「タイの大学学部生と本学理工学部生との共同研究を通じた異文化交流」ほか2件、2015年度「産学官連携資格認定プログラム」ほか1件、2016年度「次世代ウェルビーイング事業」） ・その他受託研究・共同研究等の実績あり	※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外		28

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4 Challenges	世界をリードする研究	女子短期大学	研究	スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター開設準備	・2020年度　総合文化研究所内に「ジェンダー研究所」を開設（2021年度、ジェンダー研究所を移管して大学附置「スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター」を設置）	①2019年度以降の学生募集停止（専攻科は順次）が決定されたことを受け、女子短期大学の伝統を青山学院においてどのように継承していくかが重要な課題となった。その柱の一つとして、大学附置スクーンメーカー記念ジェンダー研究センターが青山学院大学に設立されることとなった（2019年12月理事会承認）。そしてセンターへの継承のために2020年4月に女子短期大学総合文化研究所内にジェンダー研究所が設立され、1）本学のジェンダー教育研究の総括（ギャラリー展「青山学院における女子教育の歴史を振り返る」Vol.1～Vol.4等）、2）大学におけるジェンダー教育研究の取り組みの研究（他大学の取り組みに関する講演会等）、3）青山学院におけるジェンダー教育研究の展開の方向性と可能性の検討（青山学院大学開講科目の調査、生涯教育プログラム等）が行われた。これらをもとにしながら、センターの事業（研究事業、教育事業、社会貢献事業）が組み立てられていった。 2020年6月に、青山学院大学に設置準備委員会が設けられ、議論が重ねられたのち、規則が制定された（2021年1月理事会承認）。規則第2条（センターの目的）では「センターは、青山学院大学が、青山学院女子短期大学において行われていたジェンダー研究を受け継ぎ、青山学院における女子教育の伝統を新しい時代に継承するとともに、キリスト教精神に基づいた、本学におけるジェンダー研究の遂行及びジェンダー教育の発展を通じて、青山学院及び社会におけるジェンダー平等及び性の多様性の尊重に貢献することを目的とする。」と規定されている。理事会における規則承認後に開設準備室が設けられ、2021年4月にセンターが発足した。	完了	29
				総合文化研究所プロジェクトの完了	総括を参照	①総合文化研究所は1991年4月開所以来、30年にわたり51のプロジェクトを立てて共同研究を続けてきた。多岐にわたる研究がなされてきたが、女子大学としてフェミニズム、ジェンダー論の観点を持ちつつ学際的研究に取り組んできたこと、女性の生き方と社会的位置づけを考えるための重要な軸となる家族について総合的探究を続けてきたこと、キリスト教について文化、芸術、教育等を切り口とした研究を常に展開してきたことが特徴である。このようなキリスト教に基づいた女子教育と有機的に結びついた研究を未来に継承していく準備として、上記のように研究所内にジェンダー研究所を立ち上げ、スクーンメーカー記念ジェンダー研究センターにバトンを託した。「大学におけるジェンダー教育と男女共生社会」は本学の教育研究の総括を行い未来を展望するための、研究所の最後のプロジェクトであり、その成果は「総合文化研究所年報第29号」（2021年12月）にまとめられている。	完了	30
	世界が求める社会貢献	学院	※個別の中長期計画はなく、社会貢献につながる教育・研究・基盤整備の取り組みは、それぞれの項目に分類して記載している。 （右記は、AOYAMA VISIONパワーアップ宣言で実施した事項）		＜ボランティアからサービス・ラーニングへの展開＞ ・2015年度～2018年度　横断的プロジェクトによるサービス・ラーニングの展開検討 ・2019年度　サービス・ラーニングセンター設置準備委員会設置 ・2022年度　大学にシビックエンゲージメントセンターを開設（サービス・ラーニングセンター（仮称）から改名） ・フィリピン訪問プログラムの実施（初等部～大学） ・大学・短大・高等部で東日本大震災被災地支援活動の各種プログラムを実施 ＜地域・社会に貢献するプログラムの実施＞ ・渋谷区民や校友、東日本大震災被災地中学生を対象としたチャットルームセッション〔下表参照〕 ・被災地（宮城県気仙沼市・塩竈市、岩手県宮古市）における教育・文化・まちづくり等の支援を実施 ・東京2020パラリンピック・パラスポーツの普及・啓蒙活動支援として、大学学生生活部（①）・人事部（②）所管でプログラム実施 ①競技団体（カヌー）に広報インターンチーム（学生：新聞編集委員会）を派遣、渋谷区や東京都との連携事業実施 ②あすチャレ！アカデミー団体開催 ・公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会主催の大学連携出張講座プログラムを開催 ・サンロッカーズ渋谷（プロバスケットボールチーム）への記念館提供、大相撲青山場所開催等	①社会貢献の一つの大きな柱である「ボランティアからサービス・ラーニングへの展開」については、2011年の東日本大震災以降、青学生が主体的に取り組んできたボランティア活動を発展させつつ正課との接続を強化させ、青山学院が目指す人物像「サーバント・リーダー」の育成にもつながる「サービス・ラーニング」（学習活動・授業科目）の実施へと展開してきた。さらには、学生・教職員の自発的な社会貢献活動への参画を促進し、大学の持つ専門性や強みを活用してボランティアや市民協働活動の社会的効果を向上すること等をミッションとする「シビックエンゲージメントセンター」を大学に設置した（前身であるボランティアセンターから改組）。 「地域・社会に貢献するプログラムの実施」については、サービス・ラーニングや被災地支援をはじめとする各種ボランティア活動、地域に根差した社会活動に、各設置学校において継続的に取り組んできた。また、フィリピン訪問プログラムに代表されるような学校間で連携して取り組む支援活動も実施してきた。 ②2025年度以降も、個々の活動は各設置学校や学校間で連携して引き続き取り組まれる。また、青山学院における教育・研究の成果を活かした、世界からの要請に応える社会貢献を目指す精神は、AOYAMA MIRAI VISIONの「Goal 3：ソーシャル・エンゲージメント」に引き継がれ、AOYAMA VISION 160の学院目標「開かれた学びと新たな価値の創造」「開かれた研究拠点の創出」の取り組みを通して体現していく。	AOYAMA VISION 160へ継続	31

チャットルーム利用者数	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
塩竈市浦戸中学校（人）	45	69	66	48	74	57	15	34	30	22	38
渋谷区民（人）	244	155	342	1081	1110	507	－	－	－	―	―
町田・相模原市民（人）	－	－	104	397	560	380	－	－	－	―	―
校友や他の学院関係者（人）（職員、ニューヨーク大学等）	97	101	353	295	415	608	34	244	55	62	107

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4Challenges	世界に誇る知的インフラ（基盤整備）	大学	基盤整備	人的資源の活用	・FD・SDとしての研修・講演会等の実施 ・2019年10月～ URAの雇用（リエゾンセンターにて） ・国際交流センターを国際センターに改組（プロモーション、英文HPリニューアル、英文印刷物作成等） ・職員の英語力向上プログラム実施 ・大学執行部によるSDの実施　（2019年度：職員への大学新執行部所信表明および意見交換を実施）	①人事部による職員研修の他、大学における組織力の強化に向けてFD・SD研修による教職員の能力開発に取り組んだ。	完了	32
				収支構造の見直し	＜中長期志向の予算配分＞ ・共通費負担金適正額の検証 ・経常予算：適正な予算申請・配分の実施 ・臨時予算：優先順位をつけた計画的な予算配分の実行	①経常予算および臨時予算の適性な配分、経常予算および臨時予算の厳格な執行を行った。	完了	33
				施設整備・教育研究環境の充実	・2023年度　大学18号館（マクレイ記念館）完成、2024年度より新図書館開館 ・2017年度　外国人留学生と日本人学生の混住型「国際学生寮」開設（武蔵小杉(2020年度末で閉寮)、相模原（2021年度末で閉寮）） ・2017年度　中庭にフローリング（ベンチ）を設置 ・2017年度　「ブックカフェ（ななCafe）」を青山キャンパス7号館1階に開設（2024年度現在 1号館1階に移設、カフェは閉鎖） ・2017年度　「パウダールーム」を青山キャンパス7号館1階に開設（2023年度に閉鎖） ・2024年度　「インターナショナルコモンズ」（留学生と一般学生の交流の場であるグローバルラウンジ、イベントスペース、チャットルーム、ウェルネスサービスを集約した施設）を青山キャンパス7号館1階に開設	①学生向けの各種施設整備のほか、大学新図書館棟が2023年度に完成、2024年度より開館した。	完了	34
				その他 （中長期計画以外で実施した事項）	＜戦略的な広報の展開＞ ・2018年度　ロサンゼルスにオフィスを設置 ・海外リエゾンオフィス（北京（2020年度閉鎖）、シドニー（2019年度閉鎖）、台北（2019年度閉鎖）、バンコク（2023年度閉鎖）、ロサンゼルス）を通じた戦略的広報を展開　①現地開催留学フェアへの参加および大学のPR活動、②現地留学生の対応、③現地イベントや学校訪問時の通訳業務 等 ・2017年度　青学TVを開設 ・2024年度　グローバルランキング（THE日本大学ランキング等）のスコア向上に向けたコンサルティングの実施 ・2024年度　スポーツ価値創造プロジェクト発足のための現状調査及び活動計画の策定 ＜大学組織構造の改革＞ ・2024年度　教育研究活動の分野ごとに機構を設置し、各機構を構成するセンター等を設置	※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外		35
		高等部	働き方改革		・2021年度　新たな校務システムを導入。新カリキュラムへの対応、進路指導の充実、教員の作業効率向上を実現。端末も利活用しながら会議の効率化を図る。2023年度より特別コーチを導入、今後部活動指導員を導入し、クラブ引率の負担を軽減する。 ・2024年度　高等部の部活動指導員の規則が策定され、早速一部の部活動指導員の採用が始まった。	①クラブの回数を制限すること、特別コーチ、部活動指導員を一部導入できたことにより、教員のクラブ負担は多少軽減できたが、ふさわしい指導員があまりいないことは、今後も課題であり、他の方策も考える必要がある。変形時間労働制の導入が決まっていないことにより、管理職による労務管理の負担はむしろ増加しており、早急な対応が必要となっている。 ②上述のように、部活動指導員は簡単に見つからないことから、教員の負担を減らす方策は他にも検討する必要がある。	AOYAMA VISION 160へ継続	36
		高等部	教育環境の充実		・2022年度より生徒一人一台端末が実現したことにより、ICT教育、オンライン教育を充実させていく。パイプオルガンを導入し、毎日の礼拝においても、本物の音に触れていく。 ・教員もICTの研修を随時受けながら、その技術の向上と、ICT教育の促進に取り組むことができた。	①2024年度、ICT教育全般に関する迅速な対応と経費削減を目指し、高中初ICTセンターの設置が決まった。 2025年度よりその運用が始まり、各設置学校が連携を取りながら、青山学院のICT教育が促進されることになる。 パイプオルガンは、2025年3月までに寄付金が1億5千万円を超える金額が集まり、最低限の仕様を持ったオルガンのオーダーにつなげる段階までたどり着いた。発注から完成まで3年がかかるため、2027年度の設置を目指す。生徒がパイプオルガンの壮麗な音とともに毎日の礼拝を過ごすことができる日が待ち遠しい。 ②オンライン環境のほか、先端技術教育の充実として2025年度よりバーチャルラーニングの環境を整えていく。	AOYAMA VISION 160へ継続	37

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画 長期	中長期計画 中期	主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
4Challenges	世界に誇る知的インフラ（基盤整備）	幼稚園	質の良い保育を可能とする人的環境の保障		・教員が先進的な保育事例や保育環境を学ぶことを目的とし、複数年かけて国外の幼稚園を見学する研修を計画、2022年度予算を確保	①中期計画として、2022年度に教員の国外の幼稚園見学の研修を実施する計画をしたものの、コロナウイルスのパンデミックにより実施することができなかった。代わりに、人的な環境を常に最良の状態で維持するために、保育者のチームとして、また個人としての、学びと研究を重視した。保育者間のチームワークが常に良い状態で保たれるように話し合いを毎日行い、互いの保育を理解し合い補い合い、チームとして向上することに努めた。個々の保育の研究テーマについてはレポート集にまとめたが、レポートにまとめる過程においては意見交換等を行った。 ②国外での研修については、コロナウイルスによるパンデミックが落ち着いた現在、改めて計画をし、予算を確保したい。	AOYAMA VISION 160へ継続	38
			自然界の循環を感じる園舎建設・園庭づくり		・2019年度　幼稚園園舎建て替えに向けた検討を開始（2020年度基本構想・基本計画策定、2021年度基本設計、2022年度実施設計完了、2023年度着工） ・2024年度　幼稚園新園舎が7月に完成し、2学期より新園舎での保育を開始。新園庭の整備が3月に完了し、2025年4月より新園舎全体の使用を開始 ・老朽化したジャングルジムの撤去、木製ままごと小屋設置 等	①計画通り、2024年度末までに、コンセプトに合った園舎と園庭の建築を完了した。	完了	39
		法人【人事関連】	サーバント・リーダーとしての職員の育成		・サーバント・リーダー育成研修プログラムの実施 ・学院全体の国際化に貢献できる人材の育成に向けた語学研修等の実施	①【実施内容】青山学院が輩出すべき人材「サーバント・リーダー」の育成に向け、職員自身が自然とサーバント・リーダーを意識し、サーバント・リーダーの資質を理解できるよう「職員のサーバント・リーダー育成研修」を毎年3講座実施した。新型コロナウィルス感染症を導因とした社会情勢の大きな変動による影響を受けたものの、新任の職員を必須の対象に実施するとともに、各設置学校の礼拝堂での実施や特別礼拝への参加の奨励などを通じて、総合学園の職員としてのサーバント・リーダーに関してより一層意識を高めることに努めてきた。 学院全体の国際化に貢献できる人材の育成に向けた語学研修については、「グローバル化セミナー」や「語学研修」並びに「TOEIC対策講座」を実施するとともに、職員自らが積極的に行う自己研鑽（語学講座の受講料や試験の受験料）やオンデマンド研修費に対する補助を行った。 【成果】「職員のサーバント・リーダー育成研修」については対象となる総合職、一般職、有期職員の全員が1回以上の研修を受講しており、複数回受講される職員も散見された。受講後のアンケートの結果から、サーバント・リーダーについて理解が深められた旨の多くの回答が得られたことから職員に向け一定の理解が図れたのではないかと考えている。学院全体の国際化に貢献できる人材の育成に向けた語学研修については、それぞれ実施後のアンケートでは、「グローバル化に対する意識が高まった」、「語学を学ぶ機会や発言・ディスカッションする機会が得られた」との回答が多く得られており、セミナー・研修の実施や自己研鑽の補助を通じてグローバル化に対する意識の向上と語学力向上への意識付けを行うことができた。 ②「職員のサーバント・リーダー育成」並びに「国際化に貢献できる人材育成」の研修は、ともに今後も新任職員（総合職・一般職）を主な対象として実施し、より多くの職員に対してサーバント・リーダーに対する理解を促進するとともに、グローバル化に対する能力開発についてもeラーニングなど、今後新しいコンテンツを導入して推進していきたい。	AOYAMA VISION 160へ継続	40
			業務内容の専門化・多様化に応じた人材配置		・業務内容の専門化・多様化に応じて設置された学生生活部スポーツ支援課、国際部国際交流課、社会連携部社会連携課等の部署への人材配置 ・無期の専任事務職員を総合職と一般職に分離し、業務内容の適切な棲み分けをしたことによる専門化・多様化への対応 ・業務内容、役割に応じた総合職、一般職、有期事務職員、派遣職員、パートタイム職員の最適なコストパフォーマンスを意識した適切な人材配置	①【実施内容】業務内容の専門化・多様化に応じて新たに設置された部署に対しては、これまで同様に所属長とのヒアリングを経て必要かつ適切な役職、身分の職員を配置してきた。また、技術・技能系職員（保健師・看護師、常勤カウンセラー、管理栄養士）の新設、有期事務職員の指定事務に新たな種別（情報分析等に係る事務）を加える等、一律の事務職員としての採用ではなく、時勢に合わせ柔軟に対応できる仕組みをとってきた。 【成果】2022年度以降は大学に社会連携部が発足することに合わせ無期職員と有期職員をスタート時の適正人数で配置した。また、総合職と一般職に分けた各部署の人員構成については、現在も所属長とのヒアリングを行いながら、その割合の調整を行っている。総合職にはより企画・立案業務に注力するよう研修や、一般職を配置した部署からは総合職・一般職の役割について、部署の業務内容に沿って振り分けを行い、分担表にて人事部に報告してもらうことにしている。これを教職員ポータルに掲載することにより、他部署の状況を参考にしながら、自部署における総合職・一般職の役割の棲み分けを促進している。また、有期事務職員を含めた専任事務及び技術・技能系職員の人数は10年間でほぼ変わっていないが、職員人件費は減少した状態を維持できており、人事・人件費面で経営目標達成に貢献していると言える。 ②業務内容の専門化・多様化への対応とともに、働き方の多様性を考慮しつつ、職員一人ひとりの能力を最大限に発揮してもらえるよう総合職と一般職の相互乗り入れについて、制度化に向けて具体的に検討する。引き続き、特に若手、中堅層の総合職に対して、問題発見・課題形成等「より考える仕事」に重点を置いて業務にあたらせるよう、人事考課の組織目標、所属長への働きかけ等に注力したい。	AOYAMA VISION 160へ継続	41

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4Challenges	世界に誇る知的インフラ（基盤整備）	法人 【人事関連】	人材育成に主眼を置く人事制度の推進		・人事考課・目標管理制度の実施 ・管理職や各年代層など様々な階層に向けた研修機会の提供及び多様な言語の検定試験や講座受講等の自己研鑽補助制度の実施 ・本学に勤務する者として知っておくべき事柄を共通認識として身につけることを目的とした24のテーマにわたるWEB研修システムの構築 ・外部機関への出向研修の実施	①【実施内容】人事考課・目標管理制度の実施に関し、職員が十分に制度を理解できるように人事部実施の研修において、制度導入の経緯、全体像、意義などの説明がいつでも確認できるようオンデマンド化し、目標設定、中間面接、考課方法、フィードバックなど具体的な考課の実施内容の説明も行った。人事考課の各手順については、実施時期に合わせ、教職員ポータルにて周知している。また、管理職や各年代層など様々な階層に向けた研修機会の提供及び多様な言語の検定試験や講座受講等、自己研鑽補助制度の実施については、管理職層に対して本学の人事考課に対する基本姿勢や目線合わせなどを目的として「考課者研修」をケーススタディなどを取り入れ実施した。また、複数の年代の職員を一同に集めた「階層別研修」を実施した。加えて、本学の職員として知っておくべき事柄を共通認識として身に付けるためのツールであるWEB研修システムを24テーマにわたり、学院の現状を踏まえたリニューアルを行い教職員ポータルで周知を行った。さらに外部機関への出向研修では、国内は私立学校振興・共済事業団や大学基準協会など4つの機関と学校法人東北学院に派遣し、国外はオーストラリアのサザンクロス大学他アジアの2大学に派遣を実施した。受入については、国内は日本私立大学連盟及び東北学院、国外ではクアラルンプール大学から行った。 【成果】人事考課・目標管理制度の実施を通じて、制度理解を促し、各部署において、学院の目標を踏まえた上で、組織・個人の業務の役割や目標を明確にして、それに沿った業務遂行を促していくことができた。また毎年、改善を図りながら考課者研修を実施し、考課者の制度に対する理解度の向上の促進を図かるとともに、組織力向上に寄与してきた。階層別研修の実施を通して、世代間の交流および組織の中での役割意識の共有を図ることができた。また、職員の自己研鑽に対する費用補助を継続的に実施してきたことで、職員個々のスキルアップのサポートにつながった。WEB研修システムをリニューアルしたことで本学の基本事項に関する理解を深める機会を提供した。出向研修においては外部機関での業務を経験することで、業務における視野を拡げる機会を提供できた。これらのさまざまな研修実施を通して職員個々の成長をサポートし学院の維持発展に資する意識や技能を習得する機会を提供できた。 ②今後も本人事制度を行い、より多くの職員を育成できるよう研修等の実施を通じて学ぶ機会を提供していく。	AOYAMA VISION 160へ継続	42
			SDGsへの取り組み		・障がい者雇用の拡充に向けた施策を展開（事務業務のほか、清掃・植栽業務を新たに追加）	①【実施内容】 法定雇用率の上昇や労働市場の変化により本学を職場として選択する障がい者の数が限定される傾向が伺われ、加えて精神疾患の障がい者の場合は安定的な雇用継続が難しいという側面も顕著であることから、精神疾患の障がい者における事務職の雇用促進をする一方で、さらに新たな職域での雇用を検討した。他大学の調査やキャンパス外での雇用の検討などを経て、本学の実情と、コンプライアンス的にも懸念のない方策として清掃・植栽業務を担当するパートタイム職員を主に知的障がい者の方を中心に雇用し、その支援体制として業務指導者を配置した。 【成果】各自治体にある障がい者支援センターと関係を築き、実習など丁寧に行うことで2021年度・2022年度で青山キャンパスに5名、相模原キャンパスに1名の清掃・植栽担当者を雇用することができた。2024年度末現在では両キャンパス併せて8名となっている。事務職への雇用者と比較して雇用後の安定も良好であり、障がい者雇用率の向上（2020年6月1.66%→2021年6月2.27%→2022年6月2.46%→2024年6月3.34%）が図れた。また、障がい者雇用納付金（採用者数が足りていない、採用していても安定的に勤務できていない場合、その度合いに応じて事業主が国に支払う納付金）の減少（2020年度実績に対して5,625,000円→2021年度実績に対して1,850,000円→2023年度及び2024年度実績に対して0円）も達成した。今後も障がい者雇用を進めることで、社会的責任を果たすだけでなく、学院におけるダイバーシティやインクルージョンを促進する一助になればと考えている。	完了	43

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4Challenges	世界に誇る知的インフラ（基盤整備）	法人【施設関連】	キャンパス再開発計画		・2015～2016年度　横断的プロジェクトによるキャンパス再開発の検討 ・2017年度～　大学新図書館建築委員会を発足（2021年4月より既存建物解体工事、同年12月より大学18号館（マクレイ記念館）新築工事着手、2024年完成、同年4月より開館） ・2019年度　中等部校舎建て替え工事の全工程が完了 ・2019年度　幼稚園園舎建て替えに向けた検討を開始（2020年度基本構想・基本計画策定、2021年度基本設計、2022年度実施設計完了、2023年度着工、2024年度完成）	①大学18号館（マクレイ記念館）については、スケジュール通り2024年3月に完成、4月にオープンした。事業計画の目的である「学生が学び、育つ図書館」を目指し、キャンパス生活の”ホーム”として学生が集う仕組み、学生のニーズと社会の変化に対応していく”進化する図書館”を実現できた。 幼稚園については、スケジュール通り園舎を2024年7月に、園庭を2025年3月に完成させることができた。 2025年度以降の青山キャンパス再開発計画については、施設計画分科会において再開発計画を策定し、未来構想委員会に答申した。	完了	44
			長期修繕計画		・青山キャンパス特別高圧受変電設備更新（2019年度完了） ・長期修繕計画に則り、施設設備の修繕・更新を毎年実施	①青山キャンパス特別高圧受変電設備更新については、2015年に計画を開始、建物（受変電設備棟）の建設は2019年4月に完成、既存受変電設備から新受変電設備への切り替えは2019年9月に実施、既存の受変電設備等の解体・撤去は2020年3月に終わらせることができた。今後はこれまでとは異なり、設置場所を変えることなくこの建物内で受変電設備の更新が可能となった。 長期修繕計画については、詳細に見直しを行い熱源等空調設備の更新、照明器具のLEDへの更新など、着実に進めていく。	完了	45
			大規模天井改修計画		・大規模天井落下防止対策の実施（2015年度7件、2016年度5件、2017年度3件、2018年度3件、2019年度3件、2020年度1件、2021年度2件、2022年度2件、2023年度1件、2024年度2件）	①2015年度から2024年度まで10年を掛けて、青山・相模原キャンパスの大規模天井等の落下防止対策を合計29箇所実施してきた。建物の天井等における安心・安全等を確保するため、計画的に改修を行い、大きな問題もなく無事に完了し、補助金も獲得することができた。	完了	46

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画 長期	中期	主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
4Challenges	世界に誇る知的インフラ（基盤整備）	法人【財務関連】	財源確保		総括を参照	① (1)予算策定制度についての取組 各設置学校が収入予算の範囲で支出予算を策定するために予算枠の考え方を導入し、2015年度予算から実行した。2023年度予算からは、それをさらにブラッシュアップして継続している。これにより、収入が増加すれば支出も増やせるが、収入の減少が見込まれる場合は支出を縮減させなければならない、という基本方針が浸透した。 各設置学校では、予算枠の範囲でいかに効果的に策定するかを考え、支出の見直しや優先順位をつけた計画を立てることが定着した。 一方で、単年度の各学校予算では吸収することが難しい案件の受け皿も用意し、法人全体の予算として組み込めるようにした。 ◆この取組の効果もあって収支が改善し、経常収支差額比率は2015年度　4.0%、2019年度　6.2%、2024年度　9.9%となった。 (2)補助金についての取組 教育未来創造会議提言・工程表、文部科学省予算等の補助金関連情報の収集および各設置学校への情報提供を実施。各設置学校との連携強化により各種補助金の申請要件充足に係る取組を実行。 ◆私立大学等経常費補助金 2020年度 2,321,954千円→2024年度 2,624,920千円（13.0%増） （私立大学等改革総合支援事業　2020年度，2023年度，2024年度 選定あり） ◆私立学校経常費補助金　2020年度 824,308千円→2024年度 904,958千円（9.8%増） ◆施設設備系補助金の獲得 ・大規模天井等非構造部材耐震対策　2020年度 4件，2021年度 5件，2022年度 4件，2023年度 3件，2024年度 3件 ・教育研究装置・設備　2020年度 1件，2021年度 1件，2022年度 2件，2024年度 2件 ・ICT教育（デジタル教育）環境設備　2020年度 5件*，2021年度 3件*，2022年度 1件，2023年度 4件，2024年度 4件　＊GIGAスクール構想分含 (3)産学連携、受託事業等の外部資金や競争的資金についての取組 産学連携の取組基盤として2019年にリエゾンセンターを開設。URAを配置し科研費の申請サポート、共同研究の可能性のある企業とのマッチング、CEATECやSEMICON Japanなどの国内外の技術展示会への出展を行う等、組織的な研究支援体制を強化。 ◆科研費（科学研究費助成事業） 2020年度　222件 291,379千円 → 2024年度　357件 334,677千円（14.9%増） ◆共同研究 2020年度　42件 42,680千円 → 2024年度　73件 112,107千円（162.7%増） ◆受託研究 2020年度　21件 81,701千円 → 2024年度　30件 133,155千円（63.0%増） (4)資金運用についての取組 中長期的な分散投資の観点から、ポートフォリオの構築を開始して10年ほど経過したが、この間に外部委託による資金運用を順次進めてきた。多様な金融商品に分散投資することで、安定的な受取利息・配当金収入の確保を目指している。 ◆外部委託運用（簿価）は、2015年度末　225億円、2019年度末　345億円、2024年度末　463億円	完了	47
			支出の見直しと重点配分		総括を参照	① (1)重点配分（教育研究） 各設置学校独自の教育研究を目的とした中長期的視点からの先行投資など、重点項目への予算配分については、各学校の予算枠ではなく、法人で用意した枠組みで申請できるようにして、教育研究力の向上に向けての財務的支援を行った。 (2)重点配分（施設設備） キャンパス再開発、老朽化した設備の取替（計画的修繕）、特定天井の改修（耐震化）への予算配分を継続的に行い、計画的な実行を支援した。 キャンパス再開発については、2014～2024年度の間に、中等部校舎建替、大学図書館・情報メディアセンター建築、幼稚園園舎建替の各計画を、すべて自己資金で実施した。 建築基準法施行令等の改正により対象となった特定天井の改修（耐震化）については、2015年度から毎年予算を確保して実施し、2024年度で完了した。	完了	48

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
---→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類		担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
			長期	中期				
4 Challenges	世界に誇る知的インフラ（基盤整備）	法人 【財務関連】	その他：財政基盤の維持・強化		総括を参照	① （1）特定資産の積立 キャンパス再開発、計画的修繕、システム更新のための積立（特定資産への繰入）を毎年着実に行うとともに、期末支払資金の状況を確認しながら、取崩はある程度抑制し、特定資産の温存を図った。 また、「未来構想」の実行計画のために、単年度収支では吸収できない案件に備えて特定資産の積立を開始した。 さらに、第3号基本金の拡充に努め、基本金と同額の特定資産を保持した。 ◆その結果、特定資産合計は、2015年度末　344億円、2019年度末　449億円、2024年度末　598億円（年金引当特定資産を除く）となった。 （2）その他の取組 ・資金収支の中長期見通しを適時に更新して活用し、財政基盤の維持・強化の施策に役立てた。 ・2020年度に学院施設の売却による収入を借入金の全額繰上償還に充当し、残額を特定資産に積み立てた。 ・恩給（年金）会計への拠出金を計画どおり2022年度で完了し、外部委託していた年金資産を回収して、資産・負債ともに学校法人会計の貸借対照表に表示させる会計処理の変更を行った。 ◆その結果、負債比率（総負債／純資産）は、2015年度末　20.9%、2019年度末　15.9%、2024年度末　12.6%となった。	完了	49
		学院	その他 （中長期計画以外で実施した事項）		＜ICT教育環境整備（主に情報戦略推進委員会による）＞ ・事例集公開、初等部、中等部、高等部のICT機器導入 ・2017年度　新教育研究システム稼働、授業収録・動画配信サービス開始、ラーニングコモンズをオープン ・2018年度　各種サービス利用ログの記録・データ分析、情報セキュリティ対策の実施 ・2019・2020年度　次期教育研究システムの更改作業（2021年度より新サービス提供開始） ・2021年度　新教育研究システム稼働 ・2023年度　次期基幹ネットワーク系システム（2025年度稼働予定）に向けた更改作業 ＜Aoyama Global Passport Systemの構築＞ ・2018～2020年度　横断的プロジェクトによるポートフォリオ導入の検討・トライアル実施 ・2021年度～　青山学院のポートフォリオ「AOYAMA ポートフォリオ」（Aoyama Global Passport Systemから改称）を各設置学校の独自性や使い方に応じて導入。正課外の学びの記録を蓄積し、履歴を振り返ることにより主体的学びをデザインする力を育む。 ＜広報戦略の再構築＞ ・広報戦略協議会設置 ・学院・各設置学校のWebサイトのリニューアル実施 ＜事務組織改革の推進＞ ・財務部の学費関連業務等を大学庶務部経理課に移管 ・大学にスポーツ支援課、学生支援課、大学広報課設置 ・大学学務部を教務課、専門職大学院教務課、教職課程課に再編 ・大学に国際部国際交流課を設置 ・大学研究推進部を研究推進課と研究資金課に再編（2021年10月　研究資金課を廃止し、同課の分掌事務は庶務部経理課に移管） ・大学庶務部に社会連携課を設置（2024年4月より同課は庶務部から独立し、社会連携部を新設して同部に置く課となった） ・大学に社会連携部を設置 ・大学学術情報部の語学学習課を廃止し、同課の分掌事務を情報学習課に移管	※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外		50
新経営宣言の実現		法人 【財務関連】	財源確保		・2017年11月　「青山学院・新経営宣言」を発表 ・Be the Differenceの教職員への浸透を目的に「マネジメントコンセプトブック」を2018年11月に発行 ・壁画「Be the Differenceアート」をキャンパス内に設置 ・2018年度　「万代基金」を創設。目標金額は1000億円。寄付金はすべて「万代基金」に集約し、使途を「給付型奨学金（フィナンシャル・エイド）」「教育研究資金（AOYAMA VISION）」「万代基本基金（財政基盤強化のための貯蓄型基金）」に明確化 ・AOYAMA VISIONの原資となる万代基金の募集活動実施 ・校友、教職員、在校生、保護者を対象としたブランドロイヤルティ調査を実施→各設置学校においてSWOT分析を実施	①2015年度からの10年間、万代基金を中心に特別寄付金収入の累計は、126億円を超え、万代基本基金は、44億円。3号基本金も全体で292億円に達した。 万代基金の重要な使途の「給付型奨学金（フィナンシャル・エイド）」も学生の学びを止めないを合言葉にこれまでの様々な給付条件が付された冠奨学金から経済困窮度のみを最優先にした万代基金給付奨学金に集約した。また「万代基金教育研究案件」予算を新設し、各設置学校の教育研究を支援する仕組みも出来上がった。 ②超長期ヴィジョン「AOYAMA MIRAI VISION」のBase 3「財政基盤」の目標にある財政基盤確立のために引き続き募金事業を推進し、万代基金拡大・ 3Goals 実現を目指す。	AOYAMA VISION 160へ継続	51

AOYAMA VISION（2014-2024）・中長期計画＜2020年～2024年＞の総括・取組状況一覧

分類の変遷：「3つのテーマと7つのアクション」（2015～2017年度）→「4 Challenges ～AOYAMA VISIONパワーアップ宣言～」（2018～2024年度）
−−→「中長期計画」（2020～2024年度）

〈取組の引用元〉
『AOYAMA VISIONパワーアップ宣言』（2017年11月発行）
『学校法人青山学報中長期計画』（2020年1月発行）

※2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小して実施、あるいは中止した取組があります。
※女子短期大学は、2022年10月27日付で廃止（文部科学大臣認可）。中長期計画は2021年度までが対象。

＜総括欄の①②の凡例＞
①10年間の取組の総括（どのようなことが実現・達成できたか）
②【「AOYAMA VISION 160へ継続」する案件のみ】
AOYAMA VISION 160への展開（どのように引き継ぐのか、今後の予定）

分類	担当	中長期計画		主な実施内容・成果	設置学校・担当部局による総括		SQ
		長期	中期				
その他	女子短期大学	青山学院女子短期大学記念基金の設置		総括を参照	①女子短期大学の伝統を継承したスクーンメーカー記念ジェンダー研究センターの運営については、記念基金設置によるのではなくて、青山学院万代基金からの分配金をはじめ、大学予算・外部資金・寄付金その他使途として運営資金が認められている資金によることとなった。（ジェンダー研究センター規則第18条）	完了	52
		女子短期大学の取り組みの発展		・女子短期大学65年史として、2016年度に「通史編」「文集編」を、2017年度に「資料編」を刊行 ・2019～2020年度にかけて、女子短期大学70周年記念ギャラリー展「青山学院における女子教育の歴史を振り返る」vol.1～4を開催 ・女子短期大学メモリアルサイトを開設、2021年5月に公開	①ボランティア活動、スタディツアー、共生社会に向けた実践教育等については、特に、大学青山スタンダード科目、2019年度に新設された大学コミュニティ人間科学部、スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター、シビックエンゲージメントセンター等において発展的に展開されている。	完了	53
	幼稚園	青山学院緑岡幼稚園同窓会、青山学院幼稚園同窓会（いとすぎの会）との連携強化		・周年記念行事での連携、協力支援体制の強化（60周年記念写真集の作成など） ・園舎建替に関連した諸行事、募金等での連携、協力支援体制の強化（「園舎ありがとうの会」開催、園舎募金パンフレット作成など）	①園舎建替に際し、旧園舎ありがとうの会の開催や新園舎建築のための募金の呼びかけについて、青山学院幼稚園同窓会（いとすぎの会）と協力して行なった。また、創立150周年記念事業として作成した絵本「ばらのアーチをくぐって～青山学院緑岡幼稚園のおはなし～」を作成するにあたり、緑岡幼稚園の卒業生に内容の事実確認についての協力をいただいた。 青山学院幼稚園同窓会（いとすぎの会）と幼稚園の連携の強化という点では、目標を達成したと言える。今後は構築した連携のノウハウをもとに協力体制を維持していく所存である。	完了	54
	学院	その他 （中長期計画以外で実施した事項）		＜校友と学院の連携強化＞ ・広報紙「あなたと青山学院」を通じた情報発信、大学Facebookによる情報発信 ・寄付者へのメールマガジン配信 ・各支部総会への学院の参加 ・大学公開講座の実施 ＜学院史資料・文化財の活用と公開＞ ・資料センター所蔵資料のデータ整備実施、クラウド型ミュージアムシステムの導入 ・自校史教育・研究の拠点となる「青山学院ミュージアム」開設（2025年5月予定）のための調査・資料収集、間島記念館改修工事等を実施 ＜周年行事＞ 学院・各設置学校における周年行事の実施（式典・イベントの開催、記念誌（年史）の発行、記念募金の実施等） ＜その他＞ ・宗教改革500年記念行事（2017年後期を中心に聖書展等の展示や宗教改革記念週間の大学礼拝、ピアノコンサートを実施） ・2024年度　学院創立150周年や宗教センター移転等に伴うキャンパス・ミニストリーの刷新 ・全学的イベント「Aoyama Gakuin Global Week」（全学的な国際教育の一環として毎年開催。国際社会における課題や異文化への理解を深めることを目的として各設置学校で取組を実施）	※中長期計画以外で実施した項目のため、総括の対象外		55